

・ Society5.0 時代の到来 ・ 技術革新、グローバル化の進展 ・ 少子化の進行

1 背景

多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、自分の未来を切り拓き、社会の創り手となる人材の育成が必要

本県の現状と課題

- ◎生徒一人一人の個性を伸ばす魅力ある高校づくり
(ものづくり中核校、探究科学科、総合選択制等の設置)
- ◎中学卒業予定者数の減少に伴う学級減による小規模校の増加
- ◎学級減に伴う1学科1学級の職業科への対応
- ◎多様な生徒へのきめ細かな対応

富山県教育振興基本計画【3つの横断的取組み】

- ◎「課題解決型の教育」の展開
- ◎「ICT教育」の推進
- ◎「チーム富山教育」の実現

2 これまでの取組み

◎授業改善の推進

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の改善(教師力向上支援事業、教師の学び支援事業)
- ・課題解決型学習の推進
(とやま新時代創造プロジェクト学習推進事業)

◎ICTを活用した教育の推進

- ・1人1台タブレットの活用
- ・各校のICTを活用した授業を公開し、授業実践研究を推進
- ・「オンライン教育利活用ガイドブック」を作成
- ・情報通信技術支援員の派遣

◎富山型キャリア教育

- ・社会へ羽ばたく「17歳の挑戦」
- ・高校生職業教育プログラム
- ・キャリア教育アドバイザー配置

◎英語・グローバル教育

- ・研究拠点校での研究・実践
- ・各種コンテストの実施
- ・とやま型スーパーグローバルハイスクール事業
- ・高等学校生徒海外派遣事業

◎とやまの高校生ライフプラン教育充実事業

- ◎とやま科学オリンピックの実施
- ◎ふるさと学習の実施

普通系学科

- ・生徒の実態を踏まえた選択科目の充実
- ・少人数指導など個に応じた指導の充実
- ・地域の課題をテーマにするなどして、課題発見・課題解決能力の育成をねらいとする探究型の学習を推進
- ・SSH、SGHの取組み

総合学科

- ・キャリア教育の重視(1年次から「産業社会と人間」などで、将来の生き方や進路について考えていく)
- ・テーマ性をもった選択科目群「系列」の開設などによる多様な教育課程の編成

職業系専門学科

- ・インターンシップの実施や企業の技術者の招聘等による専門性の高い授業の展開
- ・とやまの高校生マイスター育成事業
- ・各種資格の取得に向けた積極的な取組み

定時制・通信制

- ・多様な生徒に対応したきめ細かな指導
- ・多部制による弾力的な学びの対応
- ・スクールカウンセラーの配置、教育相談体制の充実

3 令和の魅力と活力ある県立高校づくりの目指す姿（案）

◇魅力ある高校教育を通じた「真の幸せ（ウェルビーイング）」の向上 ～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～

- I 生徒の可能性を引き出し、自分らしく未来を切り拓いていくための、確かな資質能力と意欲の育成
- II 社会の持続的な発展を担うための、主体的に課題を発見し解決する力や他者と協働して解決策を生み出す力の育成
- III 自己と他者を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、よりよい社会を築こうとする態度の育成

4 今後の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた6つの方向性と各学科等の取組み（案）

- I 各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進
- II 地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みを推進
- III ICTの活用による学びの充実を推進
- IV グローバルに活躍する生徒の育成を推進
- V 魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備
- VI 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

- ◎特色・魅力ある教育課程の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進
- ◎学びの魅力や特色について、効果的な情報発信

- ◎ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進
- ◎個別最適な学びや協働的な学び等の教育活動を担う教職員を支援する取組みの推進

普通系学科

- ① 論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進
- ② 文理の枠を超えた複合的な課題解決を通して、新たな価値を創造するための資質・能力の育成に向けたSTEAM教育の推進
- ③ 幅広い学力層に対応したきめ細かな指導の充実
- ④ 地域や大学、産業界との連携・協働の積極的な取組みの推進
- ⑤ インターンシップの実施などキャリア教育の推進
- ⑥ 普通系学科の魅力化・特色化をさらに進めるため、学科やコースの改編などについての検討

総合学科

- ① 生徒の興味・関心、進路指導等に関わる系列等について検証しつつ、地域の特性を生かした系列等の整備についての検討
- ② 系列での学びを通じた専門性のさらなる向上と、生徒が自己の興味関心に応じて主体的に選択して学習できるという特性を生かした課題探究型の学びの充実
- ③ 地域や大学等との連携や外部の専門人材の活用等のさらなる充実
- ④ 地域や民間企業でのフィールドワークを生かした課題解決型の探究学習の推進
- ⑤ 全県的な視野に立った総合学科のある学校の配置バランス等の検討

職業系専門学科

- ① 基礎的・基本的な専門知識・技術を身につけるとともに、企業や大学との連携、先端技術の活用などを旨とした活動の推進
- ② 生徒が地元企業や実際の社会の状況を深く理解できるよう、インターンシップなどを通じた企業等との連携のさらなる推進
- ③ 他学科や地域と連携した協働的な学びの推進と課題探究型の学びの充実
- ④ 最新の設備を活用し、DXに対応できる即戦力となる生徒の育成
- ⑤ 生徒や社会のニーズに対応した学科やコースの改編などについての検討

定時制・通信制

- ① 多様な生徒に対応した習熟度別などのクラス編成による授業の推進
- ② 多様な生徒に対応した学び直しもできる教育課程の推進
- ③ 通級指導の充実
- ④ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの専門的な指導員を積極的に活用した生徒支援体制の推進
- ⑤ ジョブサポートティーチャーによる就職指導のさらなる充実

高校再編や学科・コースの見直しなどの基本的な方針についての新たな検討会議における具体的な検討

様々なタイプの学校・学科等

◎中高一貫教育校

◎国際バカロレア認定校

◎多様な生徒に対応した支援体制 などについての研究、検討

| 学科 | 学科の現状 | 特色ある取組み | 今後の取組みの視点と目指す方向(素案) |
|-------|--|--|--|
| 普通科 | <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校での学習をさらに発展させ、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報などの「各学科に共通する教科・科目」を中心に学ぶ。進学等に向けた学力向上を図ることを目指している ● 9校の普通科では、自然科学や人文科学、国際、情報など、生徒の興味・関心に応じた特定分野の科目選択ができるコースを設置し、幅広いニーズに応えられるよう特色ある教育活動を実践している ● 1年次の学習を踏まえ、興味関心をもとに2年次より文系・理系を選択する。教科の学習や課題解決学習、又、計画的なキャリア教育を通して、各教科の見方・考え方や人生観を育み、大学や短期大学、専門学校等、幅広い進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ● 「総合的な探究の時間」における課題解決型学習 ● 各コースの特色ある教育活動 ● 地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学や研究機関と連携した探究活動 ・ 地域企業の見学や、職業人による講演 ● 国際的視野の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外研修(アメリカ合衆国、イギリス等への生徒派遣) | <ul style="list-style-type: none"> ● 特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進 ➢ 文理の枠を超えた複合的な課題解決を通して、新たな価値を創造するための資質・能力の育成に向けたSTEAM教育の推進 ➢ 幅広い学力層に対応したきめ細かな指導の充実 ● 地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域や大学、産業界との連携・協働の積極的な取組みの推進 ➢ インターンシップの実施などキャリア教育の推進 ● ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 ● 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国の普通科改革の動向にも注視しつつ、普通科の魅力化・特色化をさらに進めるため、学科やコースの設置等についての検討 ➢ 中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等についての検討 |
| 探究科学科 | <ul style="list-style-type: none"> ● 数学や理科に重点を置く「理数科学科」と、国語や地理歴史、公民、英語に重点を置く「人文社会科学科」を設置し、探究的な学習や教科横断的な学習に取り組み、大学等での学問研究や実社会での問題解決に活かすことができる能力の育成を目指している ● ゼミ形式の授業や課題研究等の探究的学習、少人数指導等を通して、知識としての学力だけでなく、論理的思考力や課題発見・解決能力などの育成を目指した教育活動を実践している ● 高い学力、自ら学びを深めるための能力、また、高い志や豊かな人間性など、最先端の学問研究を行うために必要な資質・能力を養い、大学など高等教育機関への進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ● 探究的学習に重点を置くカリキュラム編成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究を進めるための基礎学習(1年次・週1時間) ・ グループ別課題研究(2年次・週2時間) ・ 校内課題研究発表会 ・ 三校合同課題研究発表会 ● 地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題研究ではグループ毎に外部助言者配置 ・ 地域企業の見学や、職業人による講演 ● 国際的視野の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外研修(アメリカ合衆国、オーストラリア等への生徒派遣) | <ul style="list-style-type: none"> ● 特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進 ➢ 知的好奇心を高め、将来の高度な学習に対応できるよう、ゼミ形式の授業により、的確な分析力や判断力、プレゼンテーション能力等を育成する取組みの推進 ● 地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域や大学、産業界との連携・協働の積極的な取組みの推進 ➢ インターンシップの実施などキャリア教育の推進 ● ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 ● 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等についての検討 |
| 国際科 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「各学科に共通する教科・科目」の学習が中心となるが、特に、外国語や国際理解に関する専門的学習に重点を置く。英語や中国語、ロシア語などを実践的に学び、国際感覚を身につけ、国際社会で活躍できるコミュニケーション能力の習得を目指している ● 海外への語学研修や友好校からの受入れ等の活動を通して、海外の生徒との交流を活発に行い、異文化を体験する教育活動を実践している ● 語学力の追求や国際関係等の研究を目的とした大学や専門学校への進学などの進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ● 「総合的な探究の時間」における異文化理解等についての課題解決型学習 ● 地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学や研究機関と連携した探究活動 ・ 地域企業の見学や、職業人による講演 ● 国際的視野の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外研修(オーストラリア、中国、韓国、ロシア等への生徒派遣) ・ 海外の学校とのオンライン交流 ・ コミュニケーション能力の向上と異文化理解 ・ 日常的な基礎英語力育成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進 ➢ 主体的・対話的・実践的な活動を通じたコミュニケーション能力と語学力向上の推進 ● 地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域や大学、産業界との連携・協働の積極的な取組みの推進 ➢ インターンシップの実施などキャリア教育の推進 ● ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 ● グローバルに活躍する生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外派遣の充実及びオンラインを活用した海外交流をさらに推進するため、交流先の開拓と交流プログラムの充実 ● 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等についての検討 |

| 学科 | 学科の現状 | 特色ある取組み | 今後の取組みの視点と目指す方向(素案) |
|------|--|---|--|
| 総合学科 | <ul style="list-style-type: none"> ●普通科、専門学科のいずれにも属さない学科であり、普通教科及び専門教科の両方の多様な科目を開設する。また、科目選択や進路選択に関するガイダンス機能の充実を図り、生徒が興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき履修科目を選択し、学びを深めることを目指している ●入学年次に履修する「産業社会と人間」において、自己の在り方・生き方や進路について考察し、必要となる教科・科目を選択するなど、教科の学習とともに自らの進路を切り開く力を育成する教育活動を実践している ●地域や地元企業等と連携したインターンシップ、就業体験やボランティア体験などの、体験を重視したキャリア教育の推進により、就職や大学進学など多様な進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ●進路に応じた選択科目群「系列」の開設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上市高校 「人文国際、自然科学、グリーン、スポーツ科学、福祉健康、情報ビジネス」 ・ 富山いずみ高校 「人文・社会、自然・情報、生活デザイン」 ・ 小杉高校 「探究、美術・スポーツ、生活・ビジネス」 ●「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育、課題解決型学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上級学校訪問、社会人班別講話、県外進路研修等の実施 ・ 課題研究まとめ発表会 ●地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校外の学修として、大学等の授業の受講、就業体験やボランティア体験による単位の修得が可能 ・ インターンシップの実施 | <ul style="list-style-type: none"> ● 特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 時代の変化等に応じた生徒それぞれの興味・関心、進路指導等に関わる系列等について検証しつつ、地域の特性を生かした系列等の整備についての検討 ➢ 系列での学びを通じた専門性のさらなる向上と、生徒が自己の興味・関心に応じて主体的に選択して学習できるという特性を生かした課題探究型の学びの充実 ● 地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域や大学等との連携や外部の専門人材の活用等のさらなる充実 ➢ 地域や民間企業でのフィールドワークを生かした課題解決型の探究学習の推進 ● ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 ● 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 全県的な視野に立って、総合学科のある学校の配置バランス等の検討 |
| 農業科 | <ul style="list-style-type: none"> ●栽培、管理、実験、調査、収穫、加工、販売などの実践的・体験的な学習を通して、農業を学ぶことに加え、農業学習を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指している ●各地域の特色ある農産物を教材とした実習や、地域資源の活用や地域課題の解決について地域・大学等と連携した研究活動、協働学習を実践している ●農畜産物生産や栽培管理分野への就農、農業法人や農業関連産業への就職、又、食品加工や園芸、造園林産分野などへの学びを生かした就職、さらには農業やそれに関わる生物や環境、バイオテクノロジーなどの学びを更に深めたいという目的意識を持った進学など、幅広い進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ●6次産業化、食の安全・安心に関する教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ GAPを取り入れた農業教育 ・ 生産物を利用した新商品の開発 ●地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ ドジョウや米ぬかを利用した持続可能な稲作の研究、実践 ・ 地域の先進農家等での研修や実習、共同研究 ・ 間伐作業などの林業体験学習 ●スマート農業など最新技術を取り入れた農業教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ GPSトラクタや農薬散布ドローン等の研修 ・ バイオ技術によるサクラ新品種の保護・増殖 ●学校農業クラブ活動による地域活動や各種競技会等の参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト発表会、意見発表会での成果発表 ・ 代議員会による他校、他県クラブ員との連携、共同研究 ●各種資格の取得に向けた積極的な取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国農業高等学校長協会のアグリマイスター顕彰制度 ●農業の魅力発信の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生産物の販売や幼・小・中学校に向けた農業体験活動や特別授業 | <ul style="list-style-type: none"> ● 特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 時代のニーズを取り入れた農業教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の意義を理解し、農業学習に関する興味・関心を高め、意欲的に農業の担い手を目指す生徒の育成 ・ 6次産業化や関連産業に寄与する生徒の育成 ・ 地域や農業における課題の発見からその解決を図り、新たな価値を創造する取り組みの実践 ➢ 課題解決能力や職業観・倫理観の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ GAP・HACCPを取り入れ、安全、安心な農業生産、管理など、持続可能で望ましい農業経営を実践する生徒の育成 ・ 地域課題の解決への取組みを通して、将来の地域リーダーとなり得る生徒の育成 ➢ 学校、学科の枠を越えた連携による学びの深化 ➢ 農業のスペシャリスト、アグリマイスターなどの目標を定めた研究や資格取得、学習の推進 ● 地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域課題の解決に向けた調査・研究を通して、課題発見、計画立案、実践、分析・改善のサイクルを回し、成功や失敗を重ねるキャリアの蓄積 ● ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業機器を利用、活用できる生徒の育成 ● 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等の検討 |

| 学科 | 学科の現状 | 特色ある取組み | 今後の取組みの視点と目指す方向(素案) |
|-----|---|---|--|
| 水産科 | <ul style="list-style-type: none"> ●海洋生物の栽培、管理、調査、加工、販売など、実践的・体験的な学習を通して、水産を学ぶことに加え、水産学習を通し職業人として必要な資質・能力を育成することを目指している ●豊かで美しい富山湾を教室・教材とした実習や、地域・大学等と連携した研究活動、協働学習を実践している ●水産物の漁獲・栽培管理など漁業分野への就職、水産物の加工や水産加工品の品質管理・衛生管理などの水産関連産業への就職、船舶や流通分野などへの就職、さらには水産資源増殖分野など水産の学びを更に深めたいという目的意識を持った進学など、幅広い進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ●海洋環境の保全、持続的な海洋資源の管理、海洋の多面的利用に関する取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ビーチクリーンアップ活動、漂着ゴミの調査・研究 ・マイクロプラスチックの集散状況及び場所の特定、形状や種類の特定や漂着に関する実験の実施 ●安全衛生管理に関する取組み <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工品製造におけるHACCPの考え方を取り入れた食品衛生管理の実践 ●地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・水産物の安定供給や付加価値向上に関する取組み(サクラマスの栽培漁業に加え、その後の製品化や販売など地域産業発展に資する取組み) ●急速な技術革新への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・水中ドローン活用に関する研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ●特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢時代のニーズを取り入れた水産教育 <ul style="list-style-type: none"> ・水産業の意義を理解し、水産学習に関する興味・関心を高める魅力発信の一層の推進 ・6次産業化や関連産業に寄与する生徒の育成 ・環境保全型の水産業に関する課題解決型の研究、実践 ・未利用魚に新たな付加価値を付けるSDGsの実践 ・ライブコマースなど、新しい販売形態の取組み ➢課題解決能力や職業観・倫理観の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心な漁場環境の保全、漁業生産、食品衛生管理など、持続可能で望ましい水産経営の実践と生徒の育成 ➢学校、学科の枠を越えた連携による学びの深化 ➢水産のスペシャリストに繋がる目標を定めた研究や資格取得、学習の推進 ●地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢地域課題の解決に向けた調査・研究を通して、課題発見、計画立案、実践、分析・改善のサイクルを回し、成功や失敗を重ねるキャリアの蓄積 ●ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 ●配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等の検討 |
| 工業科 | <ul style="list-style-type: none"> ●ものづくりを、工業生産の高度化、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などの視点を持ち、安全で安心な付加価値の高い製品や構造物を創造することを目的として、実践的・体験的な活動を行う。又、活動を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指している ●本県の特徴を踏まえ、ものづくりに関する基礎的・基本的な知識や技術、技能を身につけるとともに、より専門性を高める科目・実習項目の設定や専門講師招聘、地域連携などにより、実践的・体験的な学習活動を実践している ●実習、課題研究、現場見学、インターンシップ、専門講師招聘、地域連携・協働的な活動など、様々な学習場面から適性・進路を考えさせ、工業関連企業への就職、より専門性を高める大学や専門学校等への進学など、幅広い進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ●ものづくり人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・他科との知識や技術の共有、地域の専門人材の招聘、課題研究などを通して、ものづくりに必要な総合力を身につけるための学校設定科目「ものづくり学」を開設 ・ものづくり技術・技能および発信力の向上に資する工業技術論文発表大会(ミラコン)やロボット競技大会等の各種大会の開催、全国大会への参加 ●課題解決型学習 <ul style="list-style-type: none"> ・地域環境の水質・大気等に関する調査・研究 ・除雪作業負担軽減に関するアシスト装置の研究開発 ・文字を書くことを支援する筆記用投影装置の研究開発 ・県産原料を使ったヘアオイルの開発・販売 ・県創業支援センターと創業・移住促進住宅が一体となった施設「SCOP TOYAMA (スコップトヤマ)」開所に向けた取組み ・土木系学科でのドローン測量と3Dプリンタを融合した調査・研究 ●地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・企業等の専門家による講義、ワークショップ ・企業との共同による商品開発 ・鋳造、螺鈿など伝統産業に関わる地域イベントに参画 ・木材加工やロボット製作など小中学生向け「ものづくり教室」の開催 ・企業との連携によるローカル5Gを活用したDX推進 ・地域フェア出品や「おもちゃの病院」など地域貢献活動 ・間伐作業などの林業体験学習 ●各種資格の取得に向けた積極的な取組み <ul style="list-style-type: none"> ・全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター顕彰制度 ・熟練技能者による「出前講座」(職業能力開発協会) | <ul style="list-style-type: none"> ●特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢実践的・体験的な学習活動のさらなる推進 ➢産業の振興や社会貢献に、主体的、協働的に取り組む態度の育成 ➢技術革新や技術の高度化に対応したものづくり教育の推進 ➢他学科や工業科学科間(機械系・電気系・建築系・土木系・薬系・美術工芸系・化学系など)との横断的な課題解決型学習の模索と推進 ➢SDGsと関連した取組みの推進 ➢身体的、精神的、社会的安全教育の推進 ●地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢地域や産業界等との連携・交流や就業体験活動の積極的な導入(工業教育振興会を軸として) ➢ものづくりを中心とした地域課題解決による自己有用感の醸成および課題解決型学習の深化 ●ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢デジタル技術を活用できる能力の育成 ➢3Dプリンタ等を活用した最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」の実現 ➢DX等に対応した地域の産業界を牽引する生徒の育成 ➢「リアル」×「デジタル」の最適な組合せによる創造的な学びの研究、実践の推進 ●配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢新たな学科やコースへの改編などについての検討 ➢中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等の検討 |

| 学科 | 学科の現状 | 特色ある取組み | 今後の取組みの視点と目指す方向(素案) |
|-----|---|--|---|
| 商業科 | <ul style="list-style-type: none"> ● 科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、ビジネスの動向を捉えて、柔軟に知識・技術の変化に対応できる生徒の育成を目指している ● 地域の特色や特産品を生かした商品やサービスの企画・提案など、ビジネスの実践的・体験的な学びから、将来のスペシャリストを育成するための専門性の基礎が身に付けられる学習を実践している ● マーケティング、経済、会計、情報処理等ビジネスの知識や技術、コミュニケーション力を生かした就職や経済、経営、商学、法律等商業の学びを更に深めたいという目的意識を持った進学など、幅広い進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ● 起業マインドの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬株式会社や学校デパートの運営 ● 地域の特産品や特色を生かした商品開発等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 滑川海洋深層水塩ラーメン、氷見牛メンチカツバーガー、富山ライトレール車両ラッピングデザイン ● 国際交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾修学旅行（台湾姉妹校とのオンライン交流） ● 観光ビジネス <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生観光ガイド（勝興寺・金屋町・古城公園等） ・ 氷見市観光提案Webページの作成 ● DXを主体的に行える人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルマーケティングを活用した企画立案、ビジネスマネジメント、プログラムの育成 ● 地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山市観光アプリとタイアップしたVR体験企画 ・ 地域創造研究「ミツバチプロジェクト」の実施 ・ デザイン思考を活用した商品の企画提案 ● 高度な資格取得に向けた積極的な取組み | <ul style="list-style-type: none"> ● 特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ VUCA時代における社会のDXの進展、経済のグローバル化、観光立国の流れなどを踏まえた事例と実践による学びの一層の充実 ● 地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成 ➢ 他学科と併設された学校について、学科間連携の推進 ● ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 ● 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新たな学科やコースへの改編などについての検討 ➢ 中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等の検討 |
| 家庭科 | <ul style="list-style-type: none"> ● 実習・実験等を通して、専門的な知識・技術の向上や課題解決能力の伸長を図るとともに、「生活産業のスペシャリスト」として、地域に貢献できる生徒の育成を目指している ● 調理・服飾・保育・福祉など家庭や社会で役立つ学習を幅広く展開し、外部人材による授業や校外学習など、地域の人的・物的資源を活用しながら、実践的・体験的な学習活動を実践している ● 1年次から卒業後の進路に向けて生徒の意識を高め、家庭に関する多くの選択科目や多職種的外部講師による特別授業を開設するなど、衣食住や保育、福祉等の生活産業や関連する職業への就職や進学を中心とした幅広い進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ● 専門的な知識・技術の向上を図る取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な職業選択の能力や異世代とのコミュニケーション力の向上を図ることを目的とした保育実習や介護実習等の実施 ・ 産業界・大学講師等による生活産業の継承・創造を目的とした実習や最新の介護技術体験の実施 ・ 介護職員初任者研修の受講 ● 地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校家庭クラブ活動の積極的な実施 ・ 社会課題解決に向けた、社会福祉協議会による福祉プログラムの立案過程への参画 ・ 地元のNPO法人等と連携したSDGsへの取組み ・ 地域の子どもを対象とした食育推進活動 ・ 地元の飲食店等と連携した地元食材・廃棄食材を用いたメニューの考案・限定販売 ・ 地域の専門技術者を活用し、自分でデザインしたドレスの製作及びファッションショーの実施 ● 各種資格の取得に向けた積極的な取組み | <ul style="list-style-type: none"> ● 特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 実践的・体験的な学習活動をより一層重視し、科学技術の進展等、時代に対応した専門的知識・技術の向上・定着 ➢ 少子高齢化や福祉、食育、ライフスタイルの多様化等の様々な課題に対応できるよう、課題解決能力を育成するための教育内容の充実 ● 地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域の産業界や教育機関、自治体等との連携を強化し、社会のニーズに対応した学習の充実やSDGsの取組み ➢ 地域の福祉等の社会施設との交流を通して多様な視点を学び、福祉マインド等の豊かな人間性の育成 ➢ 他学科や学校間と連携を図ることで各専門学科の特徴を生かし、互いの学習を深める取組み ● ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進 ● 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新たな学科やコースへの改編などについての検討 ➢ 中卒予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界等のニーズを踏まえた配置バランスや定員設定等の検討 |

| 学科 | 学科の現状 | 特色ある取組み | 今後の取組みの視点と目指す方向(素案) |
|-----|--|---|---|
| 看護科 | <ul style="list-style-type: none"> ●従来の病院完結型医療から地域完結型医療への移行に伴う看護職の役割の多様化高度化に対応するため、高い専門性に裏付けられた看護実践能力と、多様な人材と信頼関係を築くことができる豊かな人間性を有する人材の育成を目指している ●地元の医療機関等と連携した充実した臨地実習や、最新のシミュレータ等を用いた実習により、実践的・体験的な学習活動を実践している ●令和元年度から看護師国家試験合格率100%を3年連続で達成する。例年地元の医療機関への就職率が高く、地域医療を支える学校となっている。看護系大学への進学にも対応しており、生徒の希望に応じた進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ●5年一貫教育のメリットを生かした、系統的で段階をふまえた教育課程 <ul style="list-style-type: none"> ・最初の3年間で看護科目の基礎・基本をしっかりと学んだ後に、専攻科の2年間では専門性の高い学習の充実 ・看護師国家試験の合格に向けた学習の充実 ●地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・地元の医療機関、特別養護老人ホーム、保育所などでの臨地実習の実施 ・大学教授や現役医師など、専門家による講義の実施 ・最新のシミュレータを導入した校内実習の実施 ●豊かな人間性の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・「特別養護老人ホーム」の夏祭りボランティア活動の実施 ・「富山マラソン」や「災害訓練」など校外活動への参加 | <ul style="list-style-type: none"> ●特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢最新の医療教材を用いた学習活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレータ等最新の医療教材を用いた実習を充実させることで、より医療現場に近い学習の機会を増やすことによる看護実践能力の育成 ●地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢地域の医療機関との連携を深め、臨地実習のさらなる充実を図るとともに、卒業後の医療現場で役立つ看護実践能力の育成 ➢臨地実習先の多様化を図り、様々な職種の人々との協働的な経験を通じたコミュニケーション能力や豊かな人間性の育成 ➢地元での高い就職率を維持し、地域医療に貢献する生徒を継続して養成する取組み ●ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢クラウドサービス等を利用して生徒間で学習の様子や成果を共有し、生徒同士で互いに学び合う姿勢の育成 ●配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討 |
| 福祉科 | <ul style="list-style-type: none"> ●専門的知識と技術の習得を通して豊かな人間性を育み、社会福祉や介護福祉に貢献する生徒の育成を目指している ●講義・演習・実習を通して、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉などの様々な福祉について学習を深める取組みを実践している ●平成29年度から介護福祉士国家試験合格率100%を5年連続で達成する。多くは県内の高齢者施設への就職や福祉系大学への進学を行っており、地元の介護・福祉を支える学校となっている。生徒の希望に沿った進路選択を実現している | <ul style="list-style-type: none"> ●専門的な知識・技術の向上を図る取組み <ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関する課題を設定し、協働して分析・考察・討論等を行うといった主体的で協働的な学習の充実 ・介護福祉士国家資格の合格に向けた学習の充実 ●地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の専門職や大学の講師等による特別授業の積極的な実施 ・福祉施設と連携し、介護実習を実施 ・高齢者施設に加え、障害者福祉施設やNPO法人等への活発なボランティア活動の実施 ・福祉科生徒と卒業生が語る「福祉の魅力」の動画を作成し、地域へ発信 | <ul style="list-style-type: none"> ●特色・魅力をさらに深化させるための取組み <ul style="list-style-type: none"> ➢時代の変化に対応できる介護福祉士の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応した生徒の育成 ・多様な価値観を受け入れ、グローバルな広い視野と積極性を持った介護職のリーダーの育成 ・多職種協働やチームケアをより一層意識した協働的な課題解決型学習のさらなる充実 ●地域・大学・企業や学校間等の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢福祉施設等との連携を強化し、さらなる地域交流の充実を通して、地域を支える介護人材の育成 ➢他学科と連携した福祉用具の開発や県外福祉科高校との交流を通じた学習の深化 ●ICTの活用による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢福祉・介護の場におけるICTの進展への対応のための学習内容の充実(福祉用具や介護ロボットなど) ●配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討 |